

# A 授 業 研 究

高 森 充 都 築 亨 酒 井 為 久  
加 藤 佳 孝 田 中 裕 巳 北 田 明 子  
宮 田 学 川 田 基 生

## I 授業研究の一つの視点

— 中学社会科歴史分野における

班学習の展開を例として —

都 築 亨

### 1. あえて授業研究をテーマとしたわれわれのねらい

今迄我々は「授業」を正面切って研究対象としてとりあげることにはしなかった。それは、中学・高校の授業について、本来的な意味での方法論を持たなかったことにもよるが、今一つは、授業の問題は教師と生徒との特殊人格的接触、ふれあいをその基底にもち、或は、話術とか名講義とかにあらわされるような、技術あるいは芸的側面を持つものであり、せいぜい一般論に結びつけられるものとして我々の出来ることは、それ以前の問題 即ち内容教科についてはその内容と構成—教材の精選が、技能教科についてはその指導における困難点の抽出とその対策が第一の問題であると考えていた故である。

私は今もなお、授業の過程を克明に観察し、正確に記録するという意味での内容ぬきの授業分析は無意味であり、又事例としての分析レポートから、どの授業にも適用できる授業理論をもつことはできないであろうと考えている。しかし同時に、授業をめぐる周辺のこと——素材としての教材の精選と分析、対象としての生徒の意識と能力等——の検討だけでは、ある程度の一般論を導き得るにしても、その研究が実際の授業を有効にすすめるためにどの程度役立つかは疑わしいといわなければならない。

もしも教材の精選が充分になされ、生徒たちの問題意識を高めた上で、その個別の能力に応じたプログラム・シートが与えられるならば、現在の授業によってうけとっている程度の学習内容は、TMを利用することによってかなり消化されるかもしれない。その時には今の形での授業は存在しなくなるであろう。

我々が教科を超えた立場で「授業」を問題にしようとしたのは、いろいろな担当教科による違いがあり、又教科の中においても、教科観、何を期待して教科の

指導を考えているかについてのその担当者の意識によって「授業」の様相が変ってくるにしても、現在崩壊寸前にある授業（というより学校教育）の中で、なおかつ日々の「授業」の中でしか生徒に与えられないものが存在するだろうし、その「授業」のもつ意味と役割りは、今日の状況の中でより重要性を増していると考えたが故である。

### 2. 中学校社会科の授業を例として

現在（49年度）の2年生の社会科は、1年の時に日本史を中心に織豊政権期までの歴史を既習し、2年で江戸時代の日本とそれに対応する近代世界の形成の歩みを学習することになっている。一応ヨーロッパを中心にフランス革命、産業革命までを学習してきた2年生の生徒（A、B両組各43名）に対して、ほぼ同一の教材内容（教科書 日本書籍 中学社会P194～203）を班（グループ）学習\* によって報告、討議する授業の形をとったのであるが、そのごく一般的な授業の形の中で、教師の問題意識（学習指導の目標）と生徒の問題意識、教師の指導 Instruction と子供たちの受容（認識）とのズレ、学校の授業によって得られるものと、授業外に獲得される Information との量的、質的差と相剋関係、教師によって与えられるものと、友達との話しあい、あるいは報告を聞いてわかったこと、特にいわゆるテストに点数化されて表わされる知識理解度とはちがった理解認識のしかたを追求してみたいと考えた。

\* 「班学習はグループ学習と異って授業の方法の問題ではなく、自主的な活動をおしすすめていく本質的な問題として把握されなければならない」（杉山明男 授業過程と学級集団の成立過程、講座授業研究IV P64）という観点からすればグループ学習に入るが、私は方法の問題の中に、内容と自主的活動という2つの座標軸をくみ込むべきであるという観点から、仮に班（グ

ループ) という表現を使用してみた。

(1) 教材と単元の構成

ヨーロッパを中心に、近代社会が形成されようとする19世紀(1815年より1870年頃まで)の市民社会の動向を中心に学習させようとしたのであるが、これは教科書の章節に従えば「産業革命と資本主義の発展」となる。この章(単元)のねらいを授業者(私)は「自由主義や議会政治はどのように発展したか」という形でおさえ、その面からの学習の進め方を構築していたのであるが、実際に授業を進めていく中で、多数の生徒たちの把握しようとしてきたこの章の内容についての課題意識は「ヨーロッパに対しておいていたアメリカがどうして大きな発展をとげたか」という点に傾斜していた。

班学習のみならず、教科書にそって一斉授業をすすめる場合においても、単元(章)の構成については生徒の一般的意識とおかれている学習条件(この場合には中2での世界史的内容についてのほり下げ方と世界地理の学習との関係等々)によって一工夫こらす必要があろう。現在の歴史教科書はあまりにも高校世界史の縮冊版化している。

(2) 目 標

- 1) 問題を自分自身で意識し、発見させ、その問題を皆で調べあい検討する場をもたせる。
- 2) その問題意識を深め、全体の生徒におしひろめ、発展させるよう指導する。
- 3) 19世紀の自由主義的な動き、民族独立の動き、議会政治における諸改革、労働運動、チャーチズムなどを一連の当時の動きとして把握し、理解させる。
- 4) アメリカ合衆国の発展(おいていた米国社会の質的、量的発展、南北戦争の歴史的意味等)の理解

(3) 予め意図した授業の流れ

- 1) 問題の確認、教科書の197~203頁までの内容をよく読ませ、その中から問題点を発見させる。
- 2) 予備学習(宿題) 197~203頁の内容の中で不思議だと思うこと、疑問に感ずること、間違いではないかと思うこと、面白いなと感じたことをいくつかあげ、その中で、自分で調べられたら調べてみようと思うことに○印をつけなさい。(提出)
- 3) 前時に課題として出していた問題点を発表させ、その後で、これから調べてゆく主な問題(の柱)をきめる。
- 4) 問題別班構成、同じような問題をもった人々が集って問題別にグループをつくる。  
仮説(予想、見とおし)→それを明らかにするための方法、分担を話しあう。
- 5) 各自分担して調べてきたことをグループごとに集って報告し、まとめる(問題→仮説→仮説の検討)全

体の発表者をきめる。

- 6) 報告を主体とした学習(A組4時間, B組5時間)
- 7) このような勉強についての反省

(4) A, B両組における授業の流れとその分析

①班におけるテーマとその分担(M…男子生徒 F…女子)

A 組 B 組

|  |   |
|--|---|
| 1. 労働運動と社会主義<br>英国の労働運動<br>M①, M②<br>社会主義の発展<br>M③, F①, F③, F④   | 1. フランスの歴史の動きと二つの革命<br>7月革命から2月革命へ F①, F②<br>激動するフランス F③<br>2月革命 F④, F⑤<br>第2帝政 F⑥  |
| 2. フランスの2つの革命<br>7月革命の内容と影響<br>F⑤, F⑥, F⑦, F⑧<br>2月革命の勃発とその影響<br>F⑨, F⑩, F⑪, F⑫  | 2. イギリスの議会政治<br>イギリスの社会の変化<br>F⑦<br>普通選挙の実現へ F⑧   |
| 3. 普仏戦争について<br>M④, M⑤, M⑥, M⑦, M⑧  | 3. ドイツの統一と普仏戦争<br>ドイツの統一 F⑨, F⑩<br>普仏戦争<br>M①, M②, M③   |
| 4. アメリカ合衆国の発展<br>①領土の拡大について<br>M⑨, M⑩, M⑪<br>②イギリスの圧迫を受けて独立したアメリカなのに、なぜアメリカ南部ではアフリカの黒人を奴隷として使っていたのか。南部と北部とでは奴隷に対して思想が違っていたのか。 F⑬, F⑭, F⑮, F⑯, F⑰ | 4. アメリカの発展<br>東部から西部へ<br>F⑱, F⑲, F⑳<br>西部開拓の歴史<br>M⑩, M⑪, M⑫<br>5. 奴隷問題と南北戦争<br>奴隷問題<br>F⑱, F⑲, F⑳, F㉑<br>南部と北部の対立<br>M⑬, M⑭, M⑮, M⑯<br>南北戦争 F⑱, F⑲ |
| ③南北戦争<br>M⑫, M⑬, M⑭, M⑮<br>④戦争の結果と外国の態度 F⑱, F⑲, F⑳, F㉑   | 6. マルクスの考えについて M⑰ M⑱<br>7. 中南米の独立 F⑳  |
| 5. トルコの歴史<br>M⑯, M⑰, M⑱  |   |

②テーマの選び方

子供たちが導入過程においてどのようなテーマを選択するかは、教師の示唆・指導のアクセルにかなりかかっている。 a 教師から一方的に課題として割あてるか、 b 全く自由に生徒たちの希望に任せて選択

させるか。aは教師から見た課題意識を生徒たちに分擔させるといふ点では能率的であろうが、生徒達にその問題がうけとめられていないとおぼろぎの資料の丸うつし報告になってしまうおそれがあり、bは生徒達の意識を主とする点で興味関心に裏付けられるが、教師からみてあまり大事でないテーマに集中し、班構成に偏りができるきらいがある。

この分野を中学生に学習させるさい、何を主たる学習のねらいにおくべきか、私の事前の主観的意図は前述の如く自由主義の発展とくに7月革命から2月革命への歴史の移り変りの辺りにあったのであるが、上記の選ばせ方でbに傾斜をつけたせいもあって、A組では31名、B組で25名が当初アメリカの発展を選んだ。アメリカという国に対する関心の強さの表われであろうか。たしかに現在の中学生には、南北戦争、西部劇等々からの世界的情報文化への接近のルートがあるが、意外に大きかったのは奴隷問題であった。

二次選択（テーマ変更をみとめ調整する段階）によってほぼ上記のテーマを決定したのであるが、ややほみ出たのが、A組で「トルコの歴史」そして無所属1名（何を選んでよいかわからない）B組で「マルクス」2名、「中南米のこと」1名、それらはそのままにして展開学習に入った。

私の主観的意図に従えば、中学生に対してはイギリス、フランスに比重をかけてこの時代の世界史を学習させれば足りるといふことでもあったが、それによって学習意欲が阻害されたとすれば一であり、結果からみると関心の大きいだけにアメリカの発展についての質疑討論は深められていた（両組とも）し、今迄の教科書の記述や私の個人的認識の方がむしろヨーロッパ史偏重であった点（高校世界史の内容としては又別の問題であろう）を反省させられたのである。

### ③グループ内における資料収集と討論をめぐる問題点

両組ともにグループの共通テーマをはっきりさせ、調べたことをもち寄って発表の準備をするように指示しておきながら、A組については資料を（図書館を中心として）まとめるために、B組については資料をもち寄ってグループでまとめるために各1時間を当初の計画とは別に与えることにした。テーマを自分のものとし、班学習を深めるためにと考えての事である。この配慮がどの程度両クラスの学習に影響を及ぼしたかは把握し難い。テーマを自分のものとしていなかった点は、両組ともに散見された。A組の1（労働運動と社会主義）B組の6（マルクス主義）などがそれである。

資料の収集段階に時間を割き、そこで空想的社会主義・唯物史観等のInstructionを補うにしても、班学習の段階で班員に補足的教示を与えたにしても、その

何れとも中途半端なものとなってしまったし、彼らが発表にさいし、他の生徒たちから質問をうけて、困惑したのもまたその点であった。中学生として手に負えないテーマを索定することは混乱を生ずるだけであり、そうした問題については教師の側からの簡略化した説明の方が有効であろう。

B組の資料あつめ後の班学習（グループ討論）に時間をさいたことが+に出てきたのは、例えば5の奴隷問題のグループである。リーダーの司会のもとにそれぞれまとめたものを報告し、不必要なものをカットし他の班員の調べたものについて質問を出しあい、グループの目標を「○分りやすくする ○図解で説明をする ○グループ全員が南北戦争、黒人問題に強くなること」におき、計画を（1）南北の状況、（2）南北戦争、（3）リンカーン、（4）黒人問題に分けてすすめていた。男子3名、女子6名の班ではあるが、リーダー（女子F④）の統率力のもとにかなりまとまった運びをみせていた。学習の後で調査した中にもこの点は反映されていたし、グループでの討論、まとめの段階に今少し比重をおけば、かなり発表学習が効果的になると思われる。

### ④発表学習における指導上の問題点

A、B両クラスともに各自班での調査まとめをし、その内容を授業時間内に発表させるといふごく一般的な学習形態をとったのであるが、今ここで「授業研究」と称して、まとめかつ報告するのはいわば内容ぬきの「授業分析」の手法による分析記録の公開ではなく、また班学習と講義による一斉学習との効果比較論でもない。同じ様な手順ですすめてきたグループ（班）学習の発表学習における授業の運びの中で、生徒の理解認識につまづきや齟齬、逆認識、不徹底さを生じたり、学習意欲の減退等を生じたとすれば、それらがいかなる点に起因するものか、大多数の生徒に有効に学習がなされた場合、その一般化されうる形でのeffective measuresを追求することができれば、という観点から、A、B2つのクラスについて対比し、掘り下げてみようとしたものである。

発表に費した授業時間は、A、B両クラスとも11月下旬から12月上旬の5～6時間であり、記録はカセット・テープへの録音を主とし、生徒の発表中に記録したメモで補い、一応、10本近くのテープを収録してみたのであるが、ここにのせるのは（紙数の関係もあり）そのごく一部である。

時期としては、12月3日（6限・A組）、11月29日（5限・B組）の内容としては両組ともかなり同じような関心で接近していた「アメリカの発展」についての報告学習である。

発表者については便宜上、頭文字で示し、それ以外

の発言(質問)者はM(男子), F(女子)(番号は(4)の①に照応する者), 教師はT, 「今の点について質問はありませんか」という問いかけは〔Qr〕(レポーターより), 〔Qt〕教師より, 「ざわついている時間, 間があるとき」は〔Zs〕で統一しようと試みた。

右欄の記号は一般化を試みるための発言のタイプであり, 一般の生徒からの疑問, 質問はQp, その質問に対する報告者(生徒)の答えはAn, 同じくその「そうです」という類いの応答はYs, 報告中の一般的な説明はR, 対比しての説明はRt, 理由を説明するものはRr, 教師よりの説明はQt(上記)のほかQs(クラス全体への問いかけ), 教師による説明や答えAt, 地図, グラフを使つての説明P, OHPスライドによるものOで示した。

A組(12. 3 火 6限)

|         |  |  |          |   |   |
|---------|--|--|----------|---|---|
| 1<br>Rt | (発表者S) 私達の班は南部と北部の相違について調べました。教科書の202頁の5行目から203頁のはじめまでの所です。まず南部と北部の産業の一般的な違いですが, 北部は本国イギリスの産業革命の影響で随分早くから資本主義の工業が発達していたようです。19世紀の始めのイギリスとの戦争のため経済的にイギリスから独立しなければならなかったことも工業の発達を早めました。それで沢山の労働者を備って工場で色々の物が生産されるようになってきました。 | (Tによる簡単な導入の後直ちに4班の発表に入る。)                    | 7<br>Qp  | M④ 資本主義で紡績工業だったら, 労働者が沢山いませんか。  |   |
|         |  |  | 8<br>Ys  | S そうです。   |   |
|         |  |  | 9<br>Qp  | M④ だったらどうして奴隷を使わなかったのですか。   | ※この質問9は大事にして                                |
|         |  |  | 10<br>An | S 奴隷というのではなくて, 労働者がいるわけです。工業だと技術がいるでしょう。だから低度の低いムチでビシビシやって働かせるような奴隷ではうまくできない。〔Zn〕 | ゆく必要があると感ずる。一斉学習の場合この辺りの理解認識のおさえがきかないと思われる。 |
|         |  |  | 11<br>At | T 奴隷というのは労働者とはちがう扱いをうけているみたい—   |   |
|         |  |  | 12<br>Ys | S 声を出す道具です。   |   |
|         |  |  | 13<br>Qp | F⑫ (発表者の書いた地図について) 北部とか南部というのはどの辺りからですか。  | (B紙に奴隷を認めた州と自由州の色わけした地図を書き黒板に)              |
|         |  |  | 14<br>An | この辺からこの辺まで(地図で)   |   |
|         |  |  | 15<br>Qp | M③ どうして色わけできるのですか。  |   |
|         |  | 1812年の英米戦争は中学の社会科ではふれなくてよい事項だろうが, 流れの理解には必要。 | 16<br>At | T これは南部, 北部という区別じゃなくて奴隷を認めている州と認めていない州の区別ですが, 大体認めている州は南部といわれる。                   |   |
|         |  |  | 17<br>Qp | M⑩ 黄色は  |   |
|         |  |  | 18<br>An | 中間。   |   |
| 2<br>Rt | 南部では北部と違って綿花が多く栽培されてきました。そして奴隷達がそのため使われましたが, 奴隷は「声を出す道具」として使われていました。<br>〔Qr〕〔Zn〕   | 散発的に発言を求める声あり。                               | 19<br>Qp | F③ 産業革命が起つたそのおかげで北部に工業が出て来たのでしょ。南部には産業革命の影響はなかったのですか。                             | ※これもよい質問だと思うが, 結果的にはこの間に直接答えていない。           |
| 3<br>Qp | F③なぜ北部だけに工業が発達したのですか。  |  | 20<br>Qt | T 先に南部の方を説明してもらった方がよさそうだね。  |   |
| 4<br>An | S その頃イギリスで産業革命が進んでいたわけですが, 北部の方がイギリスと関係が強かったから。  |  | 21<br>R  | K 南部では奴隷が使われていて, 広い農場で綿花を作っていました。奴隷は「物をいう道具」として扱われていて, 殆んどアフリカから送られてきた黒人です。〔Zn〕   |   |
| 5<br>Qp | M④ どんな工業ですか。   | 「どうして」という声も。                                 |          |   |   |
| 6<br>An | S 紡績工業が中心でした。  |  | 22<br>Rt | 北部ではそういう必要がなかったから奴隷は使われていなかったが, 南部では少数の白人が  |   |

|          |   |   |  |   |
|----------|---|---|--|---|
|          | <p>沢山の黒人を使っていました。そのため法律がすぐきつくて、黒人たちは勝手に集会を開いてはいけないとか、移動してはいけないとか——だから自由を求める声もこれに対して出てきたようです。</p>  |   | <p>んでした。陪審裁判を要求することも、証人に立つことも許されませんでした。そのためしばしば逃亡したという話です。<br/>〔Zn〕</p>  | <p>ートしようと<br/>する傾向がある。3のアメリカで生れた者というのは要解説。</p>  |
| 23<br>Qp | <p>F④ 北部で本当は黒人を使いたかったけど使えなかったのですか？使えなかったの？使いたかったけど。</p>   | <p>※よい質問だが一寸答えられない。一般の生徒にはこの質問の意味が分らなかった様である。</p>           | <p>28<br/>Rr<br/>黒人の死亡率は非常に高いのですが、南部で人口増加が著しいのは黒人の結婚年齢が低いこと、子供の数が多し事が考えられます。</p>   | <p>表(B紙)について説明。</p>   |
| 24<br>At | <p>T 使いたかったかどうか、一寸分らないよ。工場で働かせるのだったらそういう使い方より、賃金を払って、条件をきめて働いてもらう方がいい場合があるとは思わないか。</p>  |   | <p>29<br/>P<br/>綿花生産量を表わしたこのグラフですが、19世紀の始めから産業革命が起ってアメリカの綿花に対する需要は急に増加し、アメリカ国内でも綿花が必要になってきました。19世紀になって南部全域に綿花栽培が行なわれる様になりました。1790年から1860年までの間にこの様に(図で示す)、1790年は0.3万ベールでしたが、1860年には383万ベールにも増えてきました。</p>  | <p>※ここで19Qpの質問にふれるべきであったかもしれない。</p>   |
| 25<br>At | <p>アフリカからここへ連れて来られた黒人というのはどうして来たかということ。好きで来たのじゃなく、奴隷をつかまえる専門の業者がおって原住民たちを片ぱしからなわで……<br/>(奴隷狩りの話、やや興味をそそる様に話す)<br/>(わなでしかけたの、本当かな?)<br/>〔Zn〕</p>                             |   | <p>30<br/>Qp<br/>M⑤ ベールというのは。</p>  | <p>ベールという単位、報告をまとめる段階で見落とし、この時点でも補足不能(教師の不勉強)</p>   |
| 26<br>Rr | <p>K だから奴隷制度の発達した理由としては、奴隷が農園の激しい単純な労働に適していたこと。第2に皮膚の色がはっきりしていて逃げ出してもよくわかること。第3に白人の場合の様に人権などということを考えなくてもよかった* ことなどありますが、一番大きな原因は、黒人の方が前から使われていた白人の年奉公人* よりも安かったということです。</p> | <p>多数の生徒は一生懸命ノート。</p>                                       | <p>31<br/>わかんない。</p>   |   |
| 27<br>R  | <p>S 黒人について付け加えます。黒人には3つのグループがありました。1つはプランテーションで畑仕事をしていた者、2は家庭労働に従事している者、3はアメリカで生まれた者、その3つの種類がありますが、奴隷とは主人の財産で法律的権利も政治的権利も一切もっていません</p>                                     | <p>*この理由づけはもう少しつっこむとよかったと思う。白人年奉公人を説明しなかった。どの程度わかったか不明。</p> | <p>32<br/>Qp<br/>F④ 綿花生産量がのびた原因は何ですか。</p> <p>33<br/>Rr<br/>K 栽培が簡単で単位面積当りの生産量が多かったこと。適地がはるかに広範囲だったことです。〔Zn〕</p> <p>34<br/>Qp<br/>M⑥ ヘキ地?</p> <p>35<br/>An<br/>K 適地です。</p> <p>36<br/>P<br/>T アメリカで綿の栽培に適した土地はこの辺からこの辺。</p> <p>37<br/>Qs<br/>この辺は何ができる地理で習ってない。</p> <p>38<br/>Qs<br/>とうもろこし——小麦——</p> <p>39<br/>Qp<br/>F⑦ 黒人の説明でアメリカで生れた者というのはどういうこと?※</p> <p>40<br/>An<br/>S 連れて来られた人じゃなくてアメリカで生れた人</p> | <p>聞きまちがい</p> <p>社会科での地理分野との関連をつける事。最近地理の方でアメリカを学習している。</p> <p>※アメリカで生れた者といった27の真意はやや不明(お</p> |

|                 |   |   |          |  |   |
|-----------------|---|---|----------|--|---|
| 41<br>At        | T もともとここに住んでいたのは？   | そらく発表者  |          |  |   |
| 42<br>An        | インディアン [Zn]   | も) 41はしたがって39をはぐらかしてしまつたことになる。                | 5<br>Rt  | H 南部と北部では政治的にも経済的にも対立していましたが特に大きな問題は奴隷制度でした。                                       | 報告者はKとHとで2人であるがわかる発表する様に打ちあわせてあったらしい。   |
| 43<br>Qp        | F⑩ 奴隷は連れて来られたというけど、誰がお金で連れて来るの。向うに支配者がいるでしょう。[Zn]   |   | 6<br>R   | 南部では綿花を栽培するため沢山の労働者が必要でアフリカから多くの奴隷をつれてきて農園の作業をさせていました。要するに南部にとっては奴隷はなくてはならないものでした。 |   |
| 44<br>Rr        | K アフリカは植民地だったから。  |   |          | これに対し、北部は工業が中心で、奴隷制度は不必要だったので。   | プリントを参照しながらその説明をする                      |
| 45<br>Rr        | T 植民地というのは知っているね。今はアフリカに独立が沢山あるけどその頃は…(説明)*   | *この機会に植民地についての学習をしておくチャンスだと考えた。               | 7<br>Rr  | K 結局南北戦争で南部と北部とが統一されて資本主義社会に発展する基礎が出来上ったのです。[Qr]                                   | という発表であり記録はま                            |
| 46<br>Qp        | M⑩ プランターって何ですか*。  | *プランテーションについても再確認すべきだったと思う。                   | 8<br>P   | F⑧ ということは南北戦争でまとまりがついたから資本主義が発達したということになりますか。[Zn]                                  | とめにくい。この辺りのま                            |
| 47<br>An        | S 地理でやったでしょ、プランテーションというのは、その  |   | 9<br>R   | F⑧ ということとは南北戦争でまとまりがついたから資本主義が発達したということになりますか。[Zn]                                 | とめと、やりとりはやや公式的な感じであるが、補足すると益々理解が難かしくなる。 |
| 48              | 経営者をさしてプランター。   |   |          | K そういうことだと思います。  |   |
| 49<br>Qp        | F グラフの人数具体的な数字を言って下さい。  |   | 10<br>Qp | F⑩ 南北戦争でアメリカがまとまったのじゃなく、逆に乱れたように説明されたのでは？ [Zn]                                     |   |
| 50<br>An        | S 1800年89万, 1860年4,000万人です。   |   |          | K 南北戦争で議会在が乱れてきたといったのです。この時に黒人が随分政界に乗り出して、これを見た南部白人はすぐ不満で何とか黒人を抑えようとしていた様です。       | 発表の(プリント)内容と質問の意図の間にややズレがある。            |
| B組 (11.29 金 5限) |   |   |          |  |   |
| 1<br>Rt         | (発表者)K 私達は南部と北部との違いについてやりました。北部の方では関税をとり産業について強い保護政策をとっていましたが、南部では大農場経営が盛んで、綿花を栽培していました。だから工業製品は輸入していたわけです。 | Tより前時との関連指摘後直ちに5班の発表。プリント2枚を用意(南部と北部との比較について) | 11<br>Ys |  |   |
| 2<br>Rt         | 考え方も南部と北部は反対でとうとう対立することになるわけですが、その他の違いについてはプリントを見て下さい。<br>アメリカとイギリスとの戦争が1812年にあり、その戦争で経済的にイギリスから自立するわけです。   | この報告はしたがって殆んどプリントの説明という形をとる。                  | 12<br>Qp |  |   |
| 3<br>P          | 19世紀の半ばまでにアメリカ合衆国は大体今の範囲にまで発展するのですが、領土の拡大については4班がやったので、特に南部と北部の対立について発表します。                                 |   | 13<br>Rr |  |   |
| 4<br>R          | アメリカ合衆国の発展には障害が2つありました。南北戦争   |   | 14<br>Qp | F④ 南北戦争が終わったらその時に対立はすぐ消えたのですか。   | かなり高度な質問であり、                            |
|                 |   |   | 15<br>An | K そんな事はなくて圧倒的に北部の方が南部より優勢で、だから北部から南を抑えたのだと思います。                                    | 14, 16の質問の質問を試みた女子の中にはかなり高い意識がうかがわれる。   |
|                 |   |   | 16<br>Qp | F④ 心からアメリカは一つだという様になっていたのでしょうか。  | 12, 14, 16は一連の問題意識でとらえられているが、           |
|                 |   |   | 17<br>At | F 南北戦争が始ったのは南部は農業中心で、綿花などを栽培していたのに、北部は工業中心   |   |

|       |  |  |   |  |
|-------|--|--|---|--|
|       | <p>だったから——北部では奴隷は必要なかったのだけれど、北部の方からは統一した国家(中央集権)をつくりたかったから、反対する南部を抑えた様です。</p>  | <p>その答えは必ずしもストレートに答えていない。</p>                        | <p>原住民を使ったのが、激しい労働をさせた為次々と死亡し、病気をし労働力の不足で困り、そのために黒人を大量に輸入する様になってからです。</p> | <p>発表者はK (6のKと別)なりにまとめたものである。</p>  |
| 18 At | <p>北部が勝利を得ると、これに対して大きな農場を経営していたプランター(南部白人地主)は不満で南部の白人たちは共和党の政治に対し、あくまで反対していた様です。</p>   | <p>17, 18も、それらの答にはなっていない。</p>                        | 29 R  |  |
| 19 Qp | <p>F③ 共和党急進派というのは?</p>   | <p>発表及プリントについての疑問とその答え。</p>                          |   |  |
| 20 An | <p>K 奴隷制廃止論者や南部弾圧を強く主張する者達の集まりです。</p>  | <p>20はやや用意した答えを読み上げる感じ。</p>                          | 30 R  |  |
| 21 At | <p>T リンカーンは戦争が終った途端に暗殺され、ジョンソンが副大統領から大統領に昇格した。</p>   |  |   |  |
| 22 Qp | <p>r あれ、ジョンソンで[Zn]</p>   |  |   |  |
| 23 At | <p>T 名前は同じだね、ニクソンの前の。</p>  | <p>現代的関心と結びつける程の意図はなかった(と反省する)。</p>                  | 31 R  |  |
| 24 Qs | <p>他の人は知っているかな。</p>  |  |   |  |
| 25 Rt | <p>(発表者)K 奴隷制について北部は反対で南部は賛成でした。貿易については北部は保護貿易で南部は自由貿易を希望していました。政治上では北部は中央集権で南部は地方分権。政党では北部は共和党で南部は民主党です。北部はだから奴隷制度にあまり乗り気ではなかったのです。</p> | <p>プリントを発表グループで用意し、それを見ながらの指摘。</p>                   | 32 O  |  |
| 26 R  | <p>南北戦争は北部23州と南部12州との対立からついに戦争になったもので、1861年から65年の間戦われた戦争です。</p>  | <p>プリントによると視覚的にも理解できノートする労が省かれるが、やや表面的な理解にならないか。</p> | 33 O  |  |
| 27 Rr | <p>原因としては黒人問題、リンカーンへの反ばつ、生活思想の違いがあります。生活思想の違いというのは北部が自由州が多く、近代的な発達をとげていったのに南部はそうではありませんでした。</p>  |  | 34 O  |  |
| 28 Rr | <p>黒人がアメリカに多いのは、南部が綿花の栽培を始めた時、</p>   | <p>28は6の内容と重なるが、</p>                                 | 35 O  |  |
|       |  |  | 36 O  |  |
|       |  |  | 37 R  |  |
|       |  |  | 38 R  |  |
|       |  |  | 39 R  |  |
|       |  |  |   | <p>Y リンカーンと南北戦争は深い関係があります。</p> <p>リンカーンはケンタッキー州の丸木小屋で生れ、貧しい中で育って独学で弁護士になり、そして連邦下院議員になりました。(以下連邦の説明)</p> <p>リンカーンは1860年アメリカ16代大統領になりましたが、これに反ばつた南部との間に、1861年南北戦争が起つたわけです。</p> <p>戦争の山場になったゲチスバーグで後リンカーンが行なった演説は(英文をOHPで) Government of the people by the people……が有名です。(スライド)これがゲチスバーグの古戦場です。広々とした感じは、これがゲチスバーグの戦いで使われた大砲……これは奴隷解放宣言を出した所に立っている蠟人形館です。人形でリンカーンが作ってあります。しかしリンカーンはこの年暗殺されています。</p> <p>奴隷解放宣言というのは人間であつて人間でない奴隷を解放すると言う宣言です。そしてこの宣言で450万人の奴隷が解放されました。</p> <p>奴隷制度が廃止されると黒人に市民権が与えられ、黒人の議</p> |

員も出ました。しかし法律の上で白人と平等にされたにも拘らず、黒人は相変わらず差別されて、共学反対、黒人へのリンチ事件など相ついだという事です。最近の米国でもこの問題はリトルロック高校事件、ミシシッピ大学事件、黒人牧師キングという人が殺された事件などにみられます。

40  
Rt

10年ほど前、家族と一緒にアメリカにいた私の経験でも肌で感じたことがあります\*。

41  
R

黒人問題をまとめると法律上平等とされ、又黒人差別に反対する人々の努力が認められますが、現在でもこの問題は最大の問題となっています。

42  
Qs

T よくまとまっていますが、  
[Qt]

43  
Qp

F③ 保護貿易、自由貿易というの何ですか。

44  
Qt

F 保護貿易というのは？

45  
An

K 自由貿易に反対する貿易政策で、好ましくない商品の輸入に対して関税をかけたり輸出を奨励したり……(略)

46  
Qs

T 保護貿易をとっているのは南部の方、それとも北部？

47  
Qs

T 南部の方が保護貿易だと思う人。

48  
Qs

T 北部の方が保護貿易だと思う人。(挙手多数)

49  
50

T 南部の方が自由貿易を希望していたこと、Kさんの今日の一番最初で言ったことだけで覚えていたかな。

一般の生徒も新聞その他でみた記憶がある様で、それなりの反応がある。

しかし知らない生徒には補う必要を感じ後で補足する。

\* 向うでの経験を2、3例をあげてのべる。(左には省略)

全体の生徒に対する質問によって最初の発表者の内容の定着をはかろうとした。

ており、プリント、OHPシート、スライド等の資料もよく整理され、まとまっていたといえる。

(2) 発表の時間での活発さ、発言回数、質問等は著るしくAの方が多く、したがって授業における活気があふれているという感じはAの方に強かった。

この2点を各分節(両組ともほぼ同じ時間の長さであり、各50の分節に区切ってみた。時間をあらわすものではない)について子細に点検すると次の様になる。

|                      | Aクラス   | Bクラス  |
|----------------------|--|---|
| Qp; 一般の生徒からの質問、疑問の提出 | 3, 5, 7, 9, 13, 15, 17, 19, 23, 30, 32, 34, 39, 43, 46, 49 | 10, 11, 14, 16, 19, 22, 43                  |
| An; 質問に対する報告者の答弁発言   | 4, 6, 10, 35, 40, 47, 48, 50                               | 20, 15, 45                                  |
| Ys; 肯定的発言            | 8, 12, 38  | 11  |
| R; 一般的な説明            | 21, 25, 27, 38   | 4, 6, 9, 26, 29, 30, 31, 37, 38, 39, 41, 45 |
| Rt; 他と対比しての説明        | 1, 2, 22   | 1, 2, 5, 25, 40                             |
| Rr; 理由の説明            | 26, 28, 33, 45   | 7, 13, 27, 28                               |
| Qt; 教師よりの質問          | 41   | 44  |
| Qs; 一般生徒への問い         | 36, 37, 43   | 24, 46, 47, 48, 49                          |
| At; 教師による説明          | 11, 24, 36, 41, 45   | 17, 18, 21, 23                              |
| P; 地図、グラフ、表等の解説      | 14, 16, 18, 28, 34   | 2, 3, 8                                     |
| O; OHP, スライド等による説明   |  | 32, 33, 34, 35, 36                          |
| ?; わからないままに          | 31   |   |

[アメリカの発展]だけを対比して、A、B両クラスの授業過程を掘り下げてみようとしたのは、特にこの部分が記録する価値があると判断しての事ではない。

両組通じて、最も生徒の関心の高かったテーマであり、学習の終結部分に位置づけられる内容をもつものであったからである。したがって両組ともに共通する様相もかなり指摘できるが、学習の態様の中でかなり大きな差異を見せてきたのは、

(1) 一般的には発表の内容はBの方がよくまとま

発表・報告者に対する質問回数はAの16に対してBは7。説明的発言(R・R+Rrを含めて)はA11、B21。この数値のみでも、Aの方が活発にやりとりがなされ、Bが説明調(講義調ではないにしても)に終始している状況は表わされている。木原健太郎氏等による分析の手法によれば\* 発言回数の多いという事実は一つの授業のおさえになり得るといふことかもしれない



い。

\* 木原健太郎 教育過程の分析と診断 (誠信書房)

しかし、だからといってAの方がよい授業とは限らないであろう。発表内容のたしかさ(あいまいでない、解り易い)から言えば、 $A < B$ であり特にB24~45の報告は秀逸に属する報告であったといえる。

一般的にR, Rtで進行する授業の運びは単調でだれ易く、教師の講義、生徒の報告何れであれ、そのスムーズさが即生徒の理解度につながらない場合が多いが。

A組の3(Qp)~10(An), 23(Qp)~24(At), 43(Qp)~45(Rr), B組の12(Qp)~16(Qr)はその視点からすれば流れにフシをつける場面として意味がある。

この授業場面に限定して、①北部では資本制生産(工業)が発達したのになぜ南部では発達しなかったのか。②南部で奴隷制度がしかれていったのになぜ北部では奴隷を使わなかったのか、の2点について両組での歴史的認識の仕方を比較してみると、まず①についてA組では1(Rt), 3(Qp), 4(An), 19(Qp), B組では1(Rt), 7(Rt), 17(At)。②についてはA組で9(Qp), 10(An), 22(Rt), 23(Qp), B組では5(Rt), 6(R), 7(Rr), 25(Rt), 28(Rr)にみられる態様即ちA組ではQ(質問, 疑問)の形での迫り方が強く、B組ではRt又はRr(対比又は理由づけによる説明)即ちRへの傾斜が強い。多数の生徒に歴史的思考を促がすという視点に立てば、Q発言が目立つ授業が望ましいといえようが、「なぜ北部だけに工業が」→「イギリスの産業革命の影響で」というくり返しの理解よりもBの保護関税政策、その他に関連した指摘を含む理解の方が多角的理解につながるであろう。質問にしても当然その質が問題であり、Aの「紡績工業がおこったら労働者が必要ではないか、だったらなぜ奴隷を使用しないのか」の辺りまで深める事ができてはじめて学習のねらいに通ずるといえよう。何れが優れた授業であるかは、発言回数ではなくて、何が歴史的課題として把握されているか、それがいかなるひろがりをもって生徒に浸透しているかによって判断されるべきであろう。

### 3. まとめにかえて

以上の報告は授業分析の体をなしていないかもしれないし、所謂内容ぬきの分析を試るつもりは更がない。2つの授業過程の中から、①教師の課題意識と生徒の課題意識(関心)、②班学習における教師からのテーマ設定と生徒の希望をもとにした選択、③資料収集と班内での討議にかける時間的ウェイトの相違、④最も関心の高いテーマの発表学習における学習態様のちがひ、⑤その中での発言と認識の程度(質)、そしてその中から中学の社会科の授業を通じて育てられるべき歴史的思考、判断というものが一体どのようなものであるか、その点にいたる一つのさぐりを入れられればと考えるの事である。

① 教師の課題意識は概ね伝統的教材観、既成の歴史観(唯物史観も含めて)の上に立っている。たとえ極めて先進的意識のもとに教材選択を行ったとしても生徒達の関心からすればかなり遊離した(生徒のもつ関心や課題意識がすべて新しいとはいえないし、テレビ等を通じて歪められたものが多いが)ものとなり、ひとりよがりの授業に終りがちである。

② したがって、班学習のさい、生徒の希望、関心に依拠してテーマを索定する方が授業を進め易いし、その中に学習させるべき基本事項は織り込むことができる。

③ 資料を収集するための時間よりも、その後班内で討論する時間を多くした方が効果的だったと思うが、その条件が、B組の理解を深くしたとは判定しがたい。

④ 南北戦争について何を把ませればよいか、戦争の経過ではないだろうし、それにいたる南北対立醸成の原因を理解させることが、歴史を学ばせることになるのだろうか(北部=工業, 南部=綿花栽培 ∴ 奴隷制をめぐる対立→戦争)を学習させるだけだったら数時間かけて授業する意味もないし、中学校でアメリカ史を学ぶ価値があるかも疑わしい。問題はその素材を通じて、どの時代を学ばさいにも考慮の中に入れるべき歴史的諸条件についての視点を持ち、因果関係を考察できる能力をどのようにして持たせることができるかということである。